

不登校・不登校傾向の子どもがいる 家庭における「居場所」確保の現状 に関わる基礎調査

報告書

2024年3月

特定非営利活動法人クローバーの会アットやまがた

山形大学地域教育文化学部 安藤 耕己研究室



独立行政法人福祉医療機構
社会福祉振興助成事業

目次

第1章 調査の概要	
1. 調査に至る経緯	1
2. 本調査のねらい	1
3. 調査実施の経緯	1
第2章 調査結果の概要	2
1. 調査回答数 (Q 1)	2
2. 回答者の年齢 (Q 2)	2
3. 回答者の性別構成 (Q 3)	2
4. 回答者の居住自治体 (Q 4)	3
5. 回答者の家庭状況 (パートナーの有無) (Q 5)	3
6. 不登校あるいは不登校傾向となっている子どもの学年 (Q 6)	4
7. 不登校・不登校傾向にある子どもの性別 (Q 7)	4
8. 不登校・不登校傾向の原因 (Q 8)	4
9. 不登校・不登校傾向にある子どもが日中過ごす場所 (Q 9)	5
10. 不登校・不登校傾向になってからの経過期間 (Q 10)	5
11. 現在困っていること (Q 12)	6
12. 必要としている情報 (Q 13)	6
13. 既知っている (利用している) 居場所や親の会があるか (Q 13)	7
14. 居場所や親の会などの詳細 (Q 14)	7
15. 本調査に関わっての自由回答	7
第3章 若干の考察	8
1. 不登校の「原因」について	8
2. 不登校の原因の「変化」?—全国調査と本調査との比較から—	8
3. 学校・教員の疲弊?	9
4. 「学校だけ」で不登校・支援はできない	10
5. 本調査の課題	10
資料編	
・「不登校・不登校傾向の子どもがいる家庭における「居場所」確保の現状に関わる基礎調査」調査票	11
・自由記述一覧 (Q 8、Q 11、Q 12、Q 13、Q 14、本調査に関わる自由回答)	20

第1章 調査の概要

1. 調査に至る経緯

2023年5月8日、当研究室に対し、特定非営利活動法人クローバーの会アットやまがた代表樋口愛子氏より、令和5年度WAM（独立行政法人福祉医療機構）通常助成事業が採択されたことにより、「山形県内の子どもと親の居場所マップ」の作成にあたって、不登校・不登校傾向がある児童生徒（小学生・中学生）の困りごとや必要としている情報、既に利用している／知っている「居場所」「学びの場」や相談場所、「親の会」などの情報を収集するための調査実施を依頼された。以後、複数回の検討を行い、8月よりGoogleフォームによる回答収集を開始し、12月末までで回答を締め切った。

2. 本調査のねらい

山形県内における不登校あるいは学校を休みがち（以下、「不登校傾向」とする）となっている小学生・中学生とその家族に対し、学校以外の安心できる「居場所」や「学びの場」、利用しやすい相談場所や当事者家族の相互交流・ピアサポートを行っている「親の会」などに関わる情報を一元的にまとめて「山形県内の子どもと親の居場所マップ」として提供するため、関わる情報（現在困っていること／必要としている情報／既に利用している or 知っている「居場所」「学びの場」や相談場所、「親の会」などの情報）を収集することをねらいとした。調査対象は現在、不登校あるいは不登校傾向にある小学生・中学生、あるいはかつて子どもがそのような状況にあった保護者とした。

3. 調査実施の経緯

（1）調査票の設計

2023年5月に当研究室への依頼後、7月まで複数回、ゼミ生との協議を行い、特定非営利活動法人クローバーの会との打ち合わせ後、7月上旬に調査試行を実施。その結果をふまえた修正後、8月中旬から調査を開始した。

（2）調査実施方法と情報の周知

Googleフォームでの実施とした。URL および QR コードを公開した。期間は8月中旬から12月末までとし、関わるイベント及び新聞・地元放送局でのニュースでの周知も行われた。

（3）調査終了後の集計と報告書の作成

2023年12月末に調査を終了。回答数は115（※複数回の回答19名あり、詳細は後述）。以後、結果の分析を行い、2024年3月に報告書作成へと至った。

本報告書は安藤耕己が分析・執筆を行った。

第2章 調査結果の概要

1. 調査回答数 (Q1)

一家庭あたりに複数の不登校・不登校傾向の子どもがいる場合、複数回にわたって回答してもらう形式としたため、回答数を冒頭に回答してもらった。

表 2-1 回答数 (上段: 回答数、下段割合 (%))

1回目	2回目	3回目	4回目	合計
96	16	3	0	115
83.5	13.9	2.6	0.0	100.0

上掲 2-1 のように、2回目 (16名)、3回目 (3名) 合わせて 19名 (16.5%) から複数の回答があった。Q8「子どもの不登校あるいは不登校傾向の原因」中の自由記述からも、きょうだいで不登校となっていること、それが下の子どもの不登校・不登校傾向の理由ともなっていると考えられているがわかる。以下、115 が原則的に各問いへの回答数となる。

2. 回答者の年齢 (Q2)

回答者の年齢構成は以下の通りとなった。

表 2-2 回答者の年齢 (上段: 回答数、下段割合 (%))

30代	40代	50代	60代	合計
12	78	24	1	115
10.4	67.8	20.9	0.9	100.0

上掲表 2-2 にあるように、回答者の年齢は 40 歳代が一番多く、全体の 7 割弱を占めた。

3. 回答者の性別構成 (Q3)

回答者の性別は以下の通りとなった。

表 2-3 回答者の性別構成 (上段: 回答数、下段割合 (%))

男性	女性	LGBTQ+ アセクシャル	合計
8	106	1	115
7.0	92.2	0.9	100.0

上掲表 2-3 のように圧倒的に女性が多い。Q9「不登校・不登校傾向の子どもが普段いる場所」は圧倒的に自宅 (90.4%) となっているため、保護者中、特に女性が自宅にいて対応していることがうかがわれる。もちろん、そのことは Q11「現在困っていること」中の「経済的困難」「保護者が仕事に行けない」という回答の伏線ともなりかねない。

4. 回答者の居住自治体（Q4）

回答者の居住自治体は下掲の通りとなった。

表 2-4 回答者の居住自治体（上段：回答数、下段割合（%））

村山地区												
山形市	上山市	天童市	山辺町	中山町	寒河江市	河北町	西川町	大江町	村山市	東根市	尾花沢市	小計
40	2	6	6	1	3	3	3	1	2	3	1	71
34.8	1.7	5.2	5.2	0.9	2.6	2.6	2.6	0.9	1.7	2.6	0.9	61.7
最上地区			置賜地区									
新庄市	戸沢村	小計	米沢市	南陽市	高島町	川西町	長井市	白鷹町	小計			
1	1	2	9	10	3	1	8	3	34			
0.9	0.9	1.7	7.8	8.7	2.6	0.9	7.0	2.6	29.6			
庄内地区												
鶴岡市	酒田市	庄内町	小計									
6	1	1	8									
5.2	0.9	0.9	7.0									

上掲表 2-4にあるように、山形市の回答が最も多く、全体の 3 割強を占める。村山地区で見ると全体の 6 割を占めている。続いて置賜地区で 3 割の回答を占める。最上地区の回答が最も少ない。

5. 回答者の家庭状況（パートナーの有無）（Q5）

回答者の家庭状況（特にパートナーの有無について）は下記の通りとなった。

表 2-5 回答者の家庭状況（パートナーの有無）（上段：回答数、下段割合（%））

配偶者あり （事実婚含む）	シングル （離婚）	シングル （結婚歴なし）	回答した くない	計
93	20	1	1	115
80.9	17.4	0.9	0.9	100.0

配偶者ありが 8 割強、シングルが離婚歴ありと結婚歴なしを合わせて 2 割弱という回答となった。

6. 不登校あるいは不登校傾向となっている子どもの学年（Q6）

現在、不登校あるいは不登校傾向にある子どもの学年を回答してもらった結果が以下となる。

表 2-6 不登校・不登校・不登校傾向の子どもの学年（上段：回答数、下段割合（%））

小学1年	小学2年	小学3年	小学4年	小学5年	小学6年	中学1年	中学2年	中学3年	計
5	3	4	9	13	13	21	27	20	115
4.3	2.6	3.5	7.8	11.3	11.3	18.3	23.5	17.4	100.0

本設問は過去に子どもが不登校・不登校傾向にあった場合には回答しづらいものであったと思われる。そのことを差し引いても、中学生以上が全体の 6 割弱を占め、小学生は上級に行くほど数が増える。文部科学省が示しているデータと同様の結果を示している¹。

7. 不登校・不登校傾向にある子どもの性別（Q7）

Q6で回答された子どもの性別は下記の通りとなった。

表 2-7 不登校・不登校傾向にある子どもの性別構成

（上段：回答数、下段割合（%））

男性	女性	回答したくない	LGBTQ+ア セクシャル	計
65	48	1	1	115
56.5	41.7	0.9	0.9	100.0

男性が若干多い結果となっている。

8. 不登校・不登校傾向の原因（Q8）

回答者から見た子どもの不登校・不登校傾向の原因は下掲のようになった。

表 2-8 不登校・不登校傾向の原因（複数回答）（上段：回答数、下段割合（%））

いじめ	いじめを除く友人関係をめぐる問題	教員との関係をめぐる問題	学業の不振	進路に係る不安	クラブ活動・部活動への違和感・参加しづらさ	学校の校則や決まりなどをめぐる問題	入学・転編入学・進級時のトラブルや違和感	家庭の生活環境の急激な変化
21	34	44	19	7	12	30	19	17
18.3	29.6	38.3	16.5	6.1	10.4	26.1	16.5	14.8

¹ 文部科学省「令和4年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果」（https://www.mext.go.jp/content/20231004-mxt_jidou01-100002753_1.pdf）中、「(4-4) 長期欠席の学年別状況 ①学年別不登校児童生徒数」、2023a、p.72。

親子・家族との関わり方	家庭内不和	生活リズムの乱れ	非行・あそび	無気力・不安	精神面での不調	身体の不調
23	18	18	0	34	41	24
20.0	15.7	15.7	0.0	29.6	35.7	20.9

上位回答は「教員との関係をめぐる問題」(38.3%)、「精神面での不調」(35.7%)、「いじめを除く友人関係をめぐる問題」(29.6%)、「無気力・不安」(29.6%)、「学校の校則や決まりなどをめぐる問題」(26.1%)となる。想定より「いじめ」とする回答が低いことがわかる。「教員との関係」が上位を占める件は、後ほど第3章で改めて考察したい。

また、「その他」の回答における自由記述は資料編に後掲したが、「きょうだいの不登校」、「発達障がい」が複数挙げられているところが留意される点である。

9. 不登校・不登校傾向にある子どもが日中過ごす場所 (Q9)

今回調査の回答対象となっている子どもが日中過ごす場所として、以下のような回答が寄せられた(複数回答)。

表2-9 不登校・不登校傾向の子どもが日中過ごす場所(複数回答)

(上段:回答数、下段割合(%))

自宅	フリースクールやフリースペース	適応教室(教育支援センター)	学習塾	学校の別教室(図書室、保健室等)
104	22	11	3	16
90.4	19.1	9.6	2.6	13.9

基本は自宅となっており、フリースクール・フリースペースが2割弱の回答となっている。その他、学校の別教室(図書室、保健室)が13.9%、適応教室(教育支援センター)が1割弱の利用回答となっている。基本的に自宅で過ごすことが日常であることがわかる。

「その他」としての自由記述は資料編に後掲した。

10. 不登校・不登校傾向になってからの経過期間 (Q10)

子どもが不登校・不登校傾向となってからの経過期間の回答は以下ようになった。

表2-10 不登校・不登校傾向となってからの経過期間

(上段:回答数、下段割合(%))

1ヶ月未満	1~3ヶ月未満	3~6ヶ月未満	半年~1年未満	1~2年未満	2~3年未満	~3年以上	計
1	3	2	10	23	25	51	115
0.9	2.6	1.7	8.7	20.0	21.7	44.3	100.0

「3年以上」が4割強を占め、以下「2～3年未満」(21.7%)、「1～2年未満」(20.0%)と続く。1年以上として見ると、全回答の86%強となる。不登校・不登校傾向は長期化する傾向があることがうかがわれる。

1.1. 現在困っていること (Q12)

回答者に現在困っていることとして、選択肢を選んでもらった(複数回答)。

表2-11 現在困っていること(複数回答)(上段:回答数、下段割合(%))

学習面の不安	経済的困難	保護者が仕事に行けない	子どもの進路について	学校とのやりとりについて(出席扱い/出欠連絡/校長・教頭・担任等とのやりとり)	生活リズムについて	親族・友人等との人間関係について	子どもが家と学校以外に普段通える場所がない	子どものことを相談する場所や機関がない
86	25	25	61	40	49	29	52	29
74.8	21.7	21.7	53.0	34.8	42.6	25.2	45.2	25.2

「学習面の不安」(74.8%)が突出して多く回答されている。続いて「子どもの進路について」(53.0%)、「子どもが家と学校以外に普段通う場所がない」(45.2%)、「生活リズムについて」(42.6%)、「学校とのやりとり(出席扱い/出欠連絡/校長・教頭・担任等とのやりとり)」(34.8%)となっている。上位回答ではないが、「保護者が仕事に行けない」(21.7%)、「経済的困難」(21.7%)が全回答数の2割あるところが留意される。

なお、Q5でシングルと回答した回答者(21名)中、「経済的困難」を選択しているのは11回答となり、52%が経済的困難を覚えていることは注視すべき状況である。

「その他」の自由記述は資料編に後掲した。

1.2. 必要としている情報(Q12)

現在、回答者が必要としている情報について選択肢を選んで回答してもらった結果は以下の通りである(複数回答)。

表2-12 現在必要としている情報(複数回答)
(上段:回答数、下段割合(%))

経済的援助に関わる情報	子どものことを相談する場所や機関の情報	子どもが家と学校以外に普段通える場所や機関等についての情報
30	76	84
26.1	66.1	73.0

「子どもが家と学校以外に普段通える場所や機関等についての情報」が73.0%と格段に回答が多く、「子どものことを相談する場所や機関の情報」(66.1%)がそれに続く。「居場所」の確保が切実であることがうかがわれる。なお、「経済的援助に関わる情報」につい

てであるが、これもQ5でシングルと回答した回答者（21名）中では10（約47.6%）の回答となっている。この点も留意されるところである。

「その他」としての自由記述は資料編に後掲した。

13. 既に知っている（利用している）居場所や親の会があるか（Q13）

ここでは、「あなたが既に知っている（利用している）居場所となる施設・機関・団体や親の会、地域団体（部活動／スポーツクラブ／スポーツ少年団／音楽サークル／伝統芸能団体など）はありますか」として、その有無を尋ねた。

「ある」が92回答（80%）、「ない」が23回答（20%）となった。

14. 居場所や親の会などの詳細（Q14）

ここでは、「Q13で「ある」を選択された場合は、その詳細をご記入下さい。なおその際、利用料金（1回あたり／月あたり等、お答えできる範囲で）や関わる費用等も教えて下さい。また、よろしければ、そこを利用しての感想も併せてご記入下さい」として、自由記述で回答してもらった。詳細は資料編に後掲した。

15. 本調査に関わっての自由回答

ここでは「最後に、今回の調査内容や普段考えていることなど、自由にご記入下さい」として、自由記述を求めた。詳細は資料編に後掲した。

第3章 若干の考察

1. 不登校の「原因」について

文部科学省による「令和4年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果²」によると、児童・生徒（中学校）不登校者は2013年度から一貫して増加している。2022年度、不登校児童・生徒（中学校）数は299,048人となり、前年度から22.1%増となっている。このように不登校数は過去最多を更新し続けている。在籍児童生徒に占める不登校児童生徒の割合は3.2%（前年度2.6%）となっている。

山形県も不登校児童・生徒数を増加させており、やはり2022年度は2,073人、前年度から実に33%の増となっている。特に小学校での不登校は2022年度は685人となっているが、前年度から60%以上の増加となっている。看過できない状況である。中学校での不登校も1,388人、前年度から23%の増加となっている。

その原因として、上掲の「令和4年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果」では、「無気力・不安」が51.8%の高い回答となっている（選択肢を一つ回答）ことがわかる。

しかし、2023年中に特定非営利活動法人多様な学びプロジェクト事務局により実施された「不登校のこどもの育ちと学びを支える当事者実態ニーズ全国調査」（2024）³（以下、「全国調査」とする）では、さみだれ登校や不登校のこどもを育てている保護者／元保護者、さみだれ登校や不登校のこども／不登校経験者（18歳以下）、不登校経験者（19歳以上）を対象に、3,000人に近い回答を得たが、そこでの分析結果が衝撃的であった。

当事者が考える学校へ行きづらくなったきっかけとして、18歳以下では「先生との関係」（36.3%）、「勉強がわかるけど授業が合わない」（35.2%）、「学校のシステムに合わない」（28.3%）が上位となった。いままで上位にあると思われていた「友だちとの関係（いやがらせやいじめあり）」（23.8%）、「友だちとの関係（前記以外）」（16.0%）らの対人関係を上回る結果となった。これは18歳以下保護者の回答も同様となった。

さらに同全国調査の結果では、不登校経験者中、30代～50代はきっかけとして「友だちとの関係（いやがらせやいじめあり）」が1位であったが、10代・20代になると「先生との関係」が1位となっていることがわかる。

2. 不登校の原因の「変化」？—全国調査と本調査との比較から—

今回実施した本調査ではこの全国調査の質問項目も参照したため、Q5に同様の質問を行っている。結果、第2章5節で前述したように、上位回答は「教員との関係をめぐる問題」（38.3%）、「精神面での不調」（35.7%）、「いじめを除く友人関係をめぐる問題」（29.6%）、「無気力・不安」（29.6%）、「学校の校則や決まりなどをめぐる問題」（26.1%）

² 註1 前掲、文部科学省 2023a。

³ 特定非営利活動法人多様な学びプロジェクト事務局「不登校のこどもの育ちと学びを支える当事者実態ニーズ全国調査」2024年1月11日シンポジウム用資料、2024。

となっており、全国調査と同様の結果となっている。となれば、全国調査および本調査の結果からは、不登校の原因が「変化」してきたことが示唆されていると見るべきであろう。なお、全国調査でも指摘するように、上掲の文部科学省調査（2023a）では「教職員との関係をめぐる問題」は理由として回答数の 1.2%にしかになっていない。これは学校側と当事者であるこども・保護者との認識が乖離している状況があることが示唆される。

上記のように、不登校数の最高数が毎年更新されていく状況と併せ見るに、学校そのもののシステム自体が制度疲労している、あるいは学校が「非日常化」してきたともいえる状況があるのではないかとまでいわざるを得ない状況がある。

3. 学校・教員の疲弊？

また、全国調査ではその要因として教員も疲弊していることを指摘する。文部科学省「令和 4 年度公立学校教職員の人事行政状況調査結果」（2023b）中「1-1-9 精神疾患による休職者の状況（教育職員）」に関する調査結果⁴によると、教員における精神疾患による病欠休職者数が過去最多（6,539 人）を記録している。「余裕」がなく、「こなす」ことで精一杯になっているのではないか。

筆者も教員養成課程がある学部・コース（小学校教員免許必修となっている）に所属し学生を指導しており、指導学生も学校現場に送り出してきているほか、学校運営協議会委員等も引きうけているため、小学校を中心に学校現場に行く機会が多い。そこで現場の「余裕のなさ」を痛切に感じる。

山形県でここ数年来続く、小学校教員採用試験における 1 倍少々の採用倍率は、現場の人材不足、そして急激な若返りの状況があることがわかる。日中に小学校に行くと、教室に出払って職員室にはほぼ誰もいない状況を目の当たりにすることになる。さらには現在の学習指導要領におけるカリキュラムの厳密化・過密化（小学校における外国語・外国語活動の導入）により、特別活動、特に学校行事の減が子どもにも教員にも「ワンクッション」や「楽しみ」（教員側には行事の準備に負担がかかるという議論は従来あるが）の機会を失っているように感じる。

また、現在の学習指導要領において強調される「個別最適な学び」と「協働的な学び」の展開であるが、その分、教員の工夫と配慮が求められ、新たな負担となっていることがうかがわれる。さらに、対話的・協働的な学びの強調自体は評価するが、受動的で特に対話的活動が苦手な児童生徒にはそれらの活動が忌避される、あるいは精神的な負担が多くかかることが懸念される。

現在、地域学校協働活動（2017 年より制度化）として、学校と地域社会の人材や組織・団体、企業等を地域コーディネーター（地域学校協働活動推進員）がつかないで、教員の負

⁴ 文部科学省「令和 4 年度公立学校教職員の人事行政状況調査結果」中「1-1-9 精神疾患による休職者の状況（教育職員）」（https://www.mext.go.jp/content/20231222-mxt_syoto01-000033180_10.pdf）（最終閲覧日 2024 年 2 月 3 日）、2023b。

担を減らしつつ、「学校だけ」ではできない教育活動の展開や重層化への試みが施策的にも図られている。この実効化が切に願われる。

4. 「学校だけ」で不登校対応・支援はできない

上述のように、もはや言わずもがなであるが、「学校だけ」での不登校対応は難しい。今回の調査結果でもあるように、シングル家庭などにおけるフリースクール通所への公的補助、そして何よりもフリースクールそのものへの公的補助が求められよう。また、保護者や教員に一元的に外部の相談機関や支援機関・団体に関する情報提供と関わる相談を担う、組織・団体、公的制度の整備が求められる。

また、改めて、2016年制定、翌2017年施行の「義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律（教育機会確保法）」において根拠づけられた、「学校に行くこと」だけを目指としない不登校支援、義務教育段階での多様な学び方支援について、官民同じテーブルについて論じ、その実効化をスピード感を持って進めていくことが求められよう。その必要性は、上述のように不登校児童生徒数が毎年、最高数を更新する現状が根拠となる。関わる議論の進展を切に願うところである。

5. 本調査の課題

第2章でも関わる箇所でも述べたが、いま現在、不登校・不登校傾向にある子どもの保護者に加え、過去に子どもが不登校・不登校傾向にあった保護者に対しての回答を同時・同質問に対して求める形となったため、回答に不正確さが伴うものとなった。今後は対象者を厳密に分けつつ、調査を実施すべきと考える。

また、なかなか思った以上に回答数が伸びなかった。教育委員会との協働の下、学校現場からの周知が求められるかと思われる。今後、不登校支援の枠組みを官民挙げて広げ、重層的にしていくためにも官民双方の対話が継続的に進められ、両者の協働が進むことを切に願うところである。

資料

■「不登校・不登校傾向の子どもがいる家庭における「居場所」確保の現状に関わる基礎調査」調査票

■自由記述一覧（Q 8、Q 1 1、Q 1 2、Q 1 3、Q 1 4、本調査に関わる自由回答）

不登校・不登校傾向の子どもがいる家庭における「居場所」確保の現状に関わる基礎調査

特定非営利活動法人クローバーの会アットやまがた 代表 樋口 愛子

団体HP : <https://clover-yamagata.jimdofree.com> E-mail : info@cloveryama.com

【本調査の趣旨とお願い】

当団体では現在、令和5年度WAM（独立行政法人福祉医療機構）通常助成事業により、「山形県内の子どもと親の居場所マップ」の作成に着手しています。この「居場所マップ」は、山形県内における不登校あるいは学校を休みがち（以下、「不登校傾向」とする）となっている小学生・中学生とその家族に対し、学校以外の安心できる「居場所」や「学びの場」、利用しやすい相談場所や当事者家族の相互交流・ピアサポートを行っている「親の会」などに関わる情報を一元的にまとめて提供することをねらいとしています。

その枠組みや内容を検討するに当たり、不登校・不登校傾向がある小学生・中学生がいるご家庭において、現在お困りのことや必要としている情報、そして既に利用している／知っている「居場所」「学びの場」や相談場所、「親の会」などの情報について教えていただけませんか（※現在、お子さんが不登校状況にない、中学校を卒業した年齢になっている場合は、当時の状況についてお答え下さい）。

調査は本フォームで実施し、10分から15分程度のお時間をいただきます。匿名での回答となりますので、もちろん個人名や個人を特定する情報が公表されることはありません。また、本調査において収集したデータは、上記「居場所マップ」の作成および関わる報告書・プレスリリースにおいてのみ用います。

上記の内容をご理解いただけましたら、下から回答にご協力をお願いいたします。

なお、お子さんのうち複数が不登校あるいは不登校傾向にある場合は、恐縮ながら、複数回ご回答をお願いできますでしょうか。何回目の回答かわかるように確認欄を設けます。

本調査の集計と分析には山形大学地域教育文化学部の安藤耕己研究室の協力をいただくこととしております。

* 必須の質問です

1. まず確認です。お子さんの複数が不登校・不登校傾向がある場合は、恐縮ながら複数回、回答をお願いいたします。 *

Q 1. 今回の回答は何回目ですか。

1つだけマークしてください。

- 1回目
 2回目
 3回目
 4回目

2. 次に、ご回答いただくみなさんとお子さんについて教えてください。 *

Q 2. あなた（回答者）の年齢を教えてください。

1つだけマークしてください。

- 10代
 20代
 30代
 40代
 50代
 60代
 70代以上

3. Q 3. あなたの性別を教えてください。 *

1つだけマークしてください。

- 男性
 女性
 回答したくない
 その他: _____

4. Q4. あなたがいまお住まいの自治体を教えてください。*

1つだけマークしてください。

- 山形市
- 米沢市
- 鶴岡市
- 酒田市
- 新庄市
- 寒河江市
- 上山市
- 村山市
- 長井市
- 天童市
- 東根市
- 尾花沢市
- 南陽市
- 山辺町
- 中山町
- 河北町
- 西川町
- 朝日町
- 大江町
- 大石田町
- 金山町
- 最上町
- 舟形町
- 真室川町
- 大蔵村
- 鮭川村
- 戸沢村
- 高畠町
- 川西町
- 小国町
- 白鷹町
- 飯豊町

- 三川町
- 庄内町
- 遊佐町
- その他: _____

5. Q5. あなたの現在の家庭状況について教えてください。*

1つだけマークしてください。

- 配偶者がいる（事実婚を含む）
- シングル（結婚歴なし）
- シングル（離婚）
- 回答したくない
- その他: _____

6. Q6. 現在、不登校あるいは不登校傾向となっているお子さんの学年を教えてください。*

1つだけマークしてください。

- 小学1年生
- 小学2年生
- 小学3年生
- 小学4年生
- 小学5年生
- 小学6年生
- 中学1年生
- 中学2年生
- 中学3年生

7. Q7. Q6でお答えしたお子さんの性別を教えてください。*

1つだけマークしてください。

- 男性
- 女性
- 回答したくない
- その他: _____

8. Q8. あなたから見て、お子さんの不登校あるいは不登校傾向の原因と考えられるものを、以下より選択してご回答下さい（複数回答可）。

当てはまるものをすべて選択してください。

- いじめ
- いじめを除く友人関係をめぐる問題
- 教員との関係をめぐる問題
- 学業の不振
- 進路に関する不安
- クラブ活動・部活動への違和感・参加しづらさ
- 学校の校則や決まりなどをめぐる問題
- 入学・転編入学・進級時のトラブルや違和感
- 家庭の生活環境の急激な変化
- 親子・家族との関わり方
- 家庭内不和／生活リズムの乱れ
- 非行・あそび
- 無気力・不安
- 精神面での不調
- 身体の不調
- その他: _____

9. Q9. お子さんはふだん日中どこで過ごしていますか。以下より選択してご回答下さい（複数回答可）。

当てはまるものをすべて選択してください。

- 自宅
 フリースクールやフリースペース
 適応教室（教育支援センター）
 学習塾
 学校の別教室（図書室、保健室等）
 その他: _____

10. Q10. お子さんが不登校あるいは不登校傾向を見せてから、どのくらい経ちますか。以下から選択してご回答下さい。

1つだけマークしてください。

- 1ヶ月未満
 1ヶ月以上～3ヶ月未満
 3ヶ月以上～6ヶ月未満
 6ヶ月以上～1年未満
 1年以上～2年未満
 2年以上～3年未満
 3年以上

11. 次に、現在お困りのことを教えてください。

*

Q11. 現在お困りになっていることで当てはまるものを、以下より選択して回答して下さい（複数回答可）。

当てはまるものをすべて選択してください。

- 学習面の不安
- 経済的困難
- 保護者が仕事に行けない
- 子どもの進路について
- 学校とのやりとりについて（出席扱い／出欠連絡／校長・教頭・担任等とのやりとり）
- 子どもの生活リズムについて
- 親族・友人等との人間関係について
- 子どもが家と学校以外に普段通える場所がない
- 子どものことを相談する場所や機関がない
- その他: _____

12. 次に、現在必要とされる情報について教えてください。

*

Q12. 現在、お子さんの件に関わって、必要な情報で当てはまるものを以下より選択して回答して下さい（複数回答可）。

当てはまるものをすべて選択してください。

- 経済的援助に関わる情報
- 子どものことを相談する場所や機関の情報
- 子どもが家と学校以外に普段通える場所や機関等についての情報
- その他: _____

13. 次に、既に知っている（利用している）居場所や親の会について教えてください。 *

Q13. あなたが既に知っている（利用している）居場所となる施設・機関・団体や親の会、地域団体（部活動／スポーツクラブ／スポーツ少年団／音楽サークル／伝統芸能団体など）はありますか。

1つだけマークしてください。

ある

ない

14. Q14. Q13で「ある」を選択された場合は、その詳細をご記入下さい。なおその際、利用料金（1回あたり／月あたり等、お答えできる範囲で）や関わる費用等も教えてください。また、よろしければ、そこを利用しての感想も併せてご記入下さい。

15. 最後に、今回の調査内容や普段考えていることなど、自由にご記入下さい。

16. ※もし、今回おたずねしたことについて、当団体から直接お話をうかがってもよい方は、下からお名前と連絡先をご記入下さい。こちらから後日、連絡をさせていただきます。なお、急ぎの相談等については、冒頭に明示した連絡先までご連絡下さい。

Google

Q8

学校の宿題やスポ少の練習などに追われて、時間的・体力的・精神的余裕がなくなり、エネルギーを消耗してしまったと思われる
学習の拒否
コロナ禍の一斉休校
自分の気持ちとの折り合いの付け方が難しい
最初は先生やクラスへの関係で行けなくなりましたが、休んでいることから生活の乱れにつながり、学業不振、モチベーションの低さにより登校できなくなってきた。なので理由はひとつに絞れないし、複雑化していったと思います。
転勤による引越が要因の一つ
義務教育そのものに対する違和感
繊細、完璧主義
長期化による不登校定着
学級崩壊
学びにくさ、決められた時間や指示に合わせて生活することへの不応
兄弟が不登校だったので
学校が合わない
不明だが、ゲーム以外何もかも面倒くさいみたい
学習が興味関心と見合わない
学校が合わない為
兄の不登校の影響
コロナ時の長期休校からの不安
姉が不登校だった。
気質 HSPと思われます。
発達障害
感覚過敏があり超偏食、最近発達相談面談でASDかもとのこと、次回検査ですが、1学期は一生懸命頑張りましたが、なんとなく嫌だと2学期から行き渋り多くなり、今は週に数回休み、短時間登校中です
現行の学校システムが合わない
きょうだいの不登校の影響
給食が苦手。自信がなくなりコミュニケーション苦手になった。
発達に凹凸があり馴染めない
父親の行動

Q9

プレーパーク
祖父母宅
学校の支援教室
学校には行くが、毎日遅刻。週明けはほぼ欠席。
図書館、書店
私の用事や仕事の時は祖父母宅にお願いしますが、事情ありあまり100%頼れるわけではなく、ほぼ私が日中みえています
放課後等デイサービス
実家

Q11

家族以外の他者と関わる機会がほとんどない
子どもの進路について
周りの目
親が仕事に出る間、一人で誰とも関わらず自宅で過ごすことになってしまっている
子どもが家と学校以外に普段通える場所がない、私に用事があるとき、夫も祖父母も仕事で預け先がないときに、私の用事をキャンセル、出来ないが増えるのが辛いです。預け先問題が今は一番課題です。2時間だけでも心身救われます。なるべく、笑顔で一緒にいたいので、今は余裕ゼロなので沢山情報が欲しかったので、居場所マップができるなんて嬉しい！！有難い！！と嬉しくなりました。渦中にいないと、この辛さは分からないと心底感じました。イベント関連は親子で参加が多く、不安が強くまだ低学年で離れられないので、ひとりでも行けて、勿論親子でも安心できる、家庭以外の居場所が本当に必要です。
現在通えるフリースクールはありますが、職場が変わった場合は行きにくい。継続できるか懸念がある
相談機関はあるが、その機会が少ない。
子供の精神面
離婚後の借家生活を嫌がっている。

Q12

子どもの精神面の問題を探る方法
学習への取り組み
不登校児童の就労体験の機会や支援
進路など
自治体や学校の不登校対応を比較する客観的なデータ
ギフテッドと思われる子ども同士コミュニケーションを取りたい
発達障害があるので、自分の発達障害の特性を詳しく把握したいです。相談機関の情報を知りたい。
障害のある子の不登校について情報が無い
不登校当事者がどのように過ごしているか。前例など
高校生の不登校や、引きこもりの情報を知りたいが、小中より情報がわからない。

Q14

親の会 一回300円 人の話を聞くことで自分の場合を客観的に見ることができる
月1開催親の会300円/回
親の会 一回300円
・親の会 月1回300円 ・地域の獅子舞団体 ・子ども食堂 月2回 無料
利用しているフリースクールは、月額三万円ほど。この金額、安くない。フリースクールは、不登校の息子にとって、なくてはならない場所である。もしフリースクールに出会わなければ、後ろ向きな日々を送っていたと想像するので、多少の費用がかかっても通わせたいと思う。しかしその一方で、学校へ行けない子供たちに費用がかかり、問題なく学校へ行ける子供たちは、義務教育のため、原則費用がかからない。それは問題だと思う。不登校というだけで、精神面で追い詰められるのに、金銭面でも追い詰められている家庭は、少なくないと思う。もし不登校の子供が、金銭的理由でフリースクールへ行けなかったら、家に居るといえることか？自治体の理解がまだまだ足りない。未来ある子供たちのこれからを、希望あるものにしてあげたい！
フリースクール・フリースペース(月25000円・1回200円)
300円で親の会を利用してます。親の心の安定につながっています。それによって子供への関わりに余裕が生まれます。

親の会は利用してません。 適応教室、フリースクール、フリースペースがあることは知っているが、本人が行きたがらない。
親の会 300円 同じような経験をした人の体験や心情、対処法を聞くことが出来て心強かったし、心の支えになった。行事ごとや進路などに対する経験談、アドバイスなどとてもためになった。
300円/月 様々な気づきが得られる。
親の会。月1で1人300円です。利用料は500円他に菓子代になります。フリースペースもしています。利用料は500円です。同じ不登校の子を持つ親の方同士、悩み不安を話します。同じ経験をしてるからこそ、わかり合い本音で話し、励まし合い、時には笑い合い情報交換もしています。なくてはならない居場所です。まず、親が元気になる笑顔になる事を大事にしています。 フリースペースは、場所を借りている立場から、なかなか自分達がしたいことや必要な事が出来ずにいます。利用しやすく来やすい場所づくりをしていく事が課題です。
利用したことはまだありませんが、数か所検討しています。費用はかからないようです。
訪問月4回1万
親の会、プレーパーク
親の会 利用料は無料。当事者にしかわからない苦悩や体験談を聞いて不登校のわが子への接し方やこの先の見通しが見えたことで大きな安心感を得られた
親の会 300円
親の会 無料
親の会 月一 300円
親の会 月1回 参加費300円
親だけで見学などしましたが、本人が行きたがらないため利用に繋がりませんでした。 また、市で運営している適応指導教室には申し込みはしていますが、男の子がおらず行きにくく利用していません。
・教育相談室(無料) 週に3日ほど10時から11時半や12時前まで通っています。カードゲーム、ボードゲームを先生として過ごしています。中学生5人くらい、小学生1名が登録しています。毎日来ている生徒も1人いますが、午後から体調が悪くなるようで、午前中の接点はほぼありません。他の中学生は時々通っている様子です。 ・居場所(利用料金忘れた) 不登校になりたての頃に2度ほど連れて行きました。心が不安定な時期に連れて行ったのもあり続けませんでした。夕方は学童の子どもたちが来るのでガヤガヤしています。他の学区ですが、その輪に混ざれるのなら良いと思います。 ・フリースペース(無料) 不登校なりたての頃に度ほど行きましたが、本人が行こうとしないので、連れていけません。不登校同士なので、気持ちは通じる部分があるのかなと思うのですが、適応教室に行っているし、行かないとも言います。不登校なりたての心が不安定な時に連れて行ったのがいけなかったのかもしれないです。拒否している感じです。
現在利用なし。 市の教育委員会による適応教室(無料)
親の会1回300円
フリースクール (一度見学に行きましたが、利用までには至らず、利用料金については確認していません。こどもの福祉に一生懸命な先生です。)

親の会 町の適応教室(利用したことはない)
月1回300円色々な話情報を聞いて参考にしています。
親の会 1カ月に一回 300円
親の会
親の会 1回/月 数百円
月イチの親の会 (参加費200円)
月1 一回200円
親の会 0円~300円
月1回ある親の会に参加している。費用は200円。 同じような境遇の人と話をすることで気持ちが少し楽になるので大変ありがたい。夜の時間帯なので、なかなか参加できなかったり、自分の話が上手くできなくて聞くだけで終わってしまい、もう少し話したかったな、と思う事が時々あるので、月に何回かあれば嬉しい。
親の会 料金200円
親の会
いくつかの親の会
受給者証をもらい、放課後デイサービスを2箇所利用可能となっておりますが、現在 一箇所にのみ継続して通っています。
○フリースクール(月謝12500円、ひとり親世帯料金)→人との係わり、料理、いろいろ学んでいるようで嬉しい。家ではかなり自由に過ごしているが、家族以外と関わる時にふと「言葉づかい」「気配り」に気が回っているのを感じる。 ○卓球愛好会(費用はスポーツ保険のみ)→ほとんど部活にも顔を出していないがそこには触れず受け入れてくれるので助かる。また中学の友だちとの関係性は良いので、そこで会えるのも本人は楽しみにしている。 ○プログラミング教室(オンライン)
○フリースクール(月謝12500円、ひとり親世帯料金)→フリースクールでの活動などで、少しずつ自信がついているのを感じる。いろんな体験をさせていただき感謝している。
●親の会 ●フリースクール 1回2000円、月25000円 ●サッカー少年団
フリースクール代として月25,000円
フリースクール 月¥25000 通うようになっていろいろなことに意欲的になっていくのを感じてとても満足しています。子供にも親にもとても大事な居場所だと思っています。
フリースクール、フリースペース 当事者の目線で相談に乗って下さり、子どもにとっても安心できる居場所ができて親子共々助けられています。
フリースクール 月額25000円 (学校の人の多さが苦手、決まったことをさせられる、授業がつまらない、友達の話について行けない、でも行かなきゃいけない…と苦しんでいた事から開放された様子です。アットホームで、何事も自己決定できるフリースクールでの時間を楽しみに毎日過ごしており、子供らしい様子を微笑ましく思ってます。)
フリースクール、1ヶ月25000円 学校に行けなくなり、家の中でも家族の目が厳しく居場所がなくなった。学校、家以外の居場所を求めて現在通うフリースクールに出会った。通ううちに、子どもが明るく元気になったので。本当に感謝している。
子供が安心できる場所

<p>若者相談支援拠点→和菓子作りに参加して喜んで帰ってきた。外部の方と交流できて良かった。</p> <p>親の会①→心理士の先生が参加して助言頂ける。</p> <p>親の会②→同じような悩みを持っている親が参加して話をしたり、聞いて私だけでないと心強い。</p>
<p>フリースクール、山形市内の居場所（無料）</p>
<p>親の会や若者相談支援拠点での相談を利用させていただきました。料金はなしが、あっても100円程度でした。親だけが相談させていただき、子供につなぐことができませんでした。いつも親身になって話を聞いていただき感謝しています。</p>
<p>親の会月1回開催 無料 アットホームで気楽に参加できる雰囲気が良い</p>
<p>親の会、フリースクール</p>
<p>フリースクール 月4回10000円 2回5000円</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・親の会 参加費300円、親同士悩みを話し、共感したり情報交換ができて良かった ・適応指導教室 無料、勉強したい気持ちはあるが学校に行けないうちの子には合っていると思ったが、一度行ったきり行けず。フリースクールだと学校の勉強とは違う学びの場で良し悪しを判断するのも難しいため、市の施設でこういった学校の勉強ができる場があるのは有難い ・フリースクール① 見学のみ、フリースクールの選択肢が増えるのは有難い。火曜のみ ・フリースクール② 週4回と利用できる日が多い、フリースクールの運営会社が信頼できる ・とあるNPO法人の訪問看護 医療保険を使い、訪問で関わってもらえる。作業療法士や看護師の資格をもつスタッフで安心できる
<p>親の会</p>
<p>居場所（学童もやっているところ） 月6,000～8,000円位</p> <p>スタッフの方が理解があり、学校への付き添いや子供の様子を先生に伝えたりしてくれるので、とても助けられています。居場所での様子も、気になることがあるとすぐに話をしてくれるので安心して預けられるし、何よりも子供が信頼しています。居場所に通いだしてから、子供が変化してきました。</p>
<p>親の会 1回300円</p>
<p>月1回の親の会。同じ立場の方々なので、気持ちを分かってもらえる安心感。悩みを話せるし、その悩みに対して自分ひとりではないという安堵感。先輩方々のお話が聞けること。そのお子さんが、今立派に生活している姿を聞く事ができ、少し未来が明るく見えてきたこと。精神的な心の支えになっています。</p>
<p>ある若者相談支援拠点の居場所</p> <p>不登校の子どもと親が安心して過ごせる場所です。理解あるスタッフや、同じような境遇の子どもと親と一緒に遊んだり話をしたりできます。毎月第二日曜日の午後に「親の居場所」というお話会のようなものがあります。</p>
<p>ある若者相談支援拠点</p> <p>とても温かくそのままを受け入れてくださるので、子ども達も私も居心地が良い居場所です。消極的な子ども達もそこには行きたがるので、ありがたいです。</p>
<p>ある若者相談支援拠点で実施している地域食堂は 子供は無料 親は100円 不登校、行き渋りの子を持つ親がいらっしゃるので多くの話を聞けるので非常にいいです。</p>
<p>親の会 思春期デイ フリースクール</p>
<p>1回あたり300円</p>
<p>月額週3回登所で12000円 回数券3枚6000円、単発2500円</p>
<p>単発利用一回2000円</p>
<p>習い事の教室 ￥8800/月</p>

過去 不登校当時～卒業後20代前半程度

- ・各市町村の図書館・図書室
- ・地域の演劇ボランティア
- ・地域のサークル活動など
- ・県外のフリースクールなど

現在

- ・ある若者相談支援拠点 利用料、月500円、イベント参加時は参加費別途負担あり
- ・地域でNPO法人が運営しているフリースペース 利用料一回300円
- ・社会福祉協議会内のフリースペース
- ・訪問看護事務所内のフリースペース

放課後等デイサービス 世帯収入によって月額の上限は変わる。不登校になってからデイサービスも行かなくなってしまった。

無料 市内の児童館 身体いっぱい遊べる

休みだと、知り合いに会うと、あれ？学校は？となるのが少々辛いです。

フリースクール 1万円4回

フリースクール

これまでは一回2000円の回数券で。11月からは24000/月の定期利用に。

子ども自身が楽しく行っている、定期利用となれば学校と学習面の調整もしていただける点も心強い。

フリースペース 無料 子供は居心地がいいようで安心している

1:適応教室 無料 毎日楽しく通っている。

2:フリースペース 無料 子供は居心地がいいようで安心している

適応教室、無料。誠実に対応してもらえた。

フリースクールに所属しています。一カ月2.5万円。実際通ってみると元気いっぱいみんなでワイワイと過ごす感じなので、静かに過ごしたい場合はなかなか難しいようで、今は行けていません。

月1回親の会。 気持ちを本当の意味で共感できる場、生の情報を得られる場は親の会しかない。

親の会

フリースペース 1回300円 安心できる空間、好きな事に集中出来た。同じ境遇の人が居た。

不登校の親の会に参加させていただいておりました。

みなさんのさまざまなお話から、とても励まされました。

親が「不登校の親の会」を利用させていただいておりました。様々なお話を聞く事ができて、とても、うちの娘だけではないのだと、少し安心して向き合う事ができました。

Q15 自由回答

今、フリースクールに預けていますが、今になって、預けている間、問題なく過ごしていたか、とても気になってい
ます。預けたら預けたで、問題もあるのだなと今になって思います。いろいろ傷ついて、フリースクールに通ってい
るのだから、安全は確保してほしいです。

学校以外の居場所の選択肢は多いに越したことはないと思う。ただ、子どもの不登校の段階や個人の状況によって
は、親や周りの方が選択肢を示しても本人が興味を示さない、必要としていないこともあると思う。

有料のフリースクール等の場合は家庭の経済的負担や、距離的に遠い場所ならば親の送迎の負担も気になる。

不登校、行きしぶり状況になったときに相談できる窓口が公的なものは場当たりの回答しかないし、フリースクール
はスピリチュアル系に傾倒してしまう場合もあり、親子共々ありのままを受け入れてくれる場所が、あまりにも限
られていると感じます。また、公教育に通えなくなると、親が仕事に行けなくなったり経済的に困窮する場合もある
為補助は絶対に必要だと感じます。

子供の居場所があったら良いな、と思っていますが、ではあったら我が子は行けるか？と言われると行かないのでは
ないかと思います。外との関わりが大切だと感じるし、そうあって欲しいですが今は自分から動くのを待つしかない
と思っています。どこにも所属のないことが不安の材料になってしまわないような情報もあったらありがたいです。

定期的に広く意見を聞き、より良い環境を作っていただきたいと思います。

学校へ行けなくなった時、家庭の負担が大きい。学校へ相談しても基本的には復学することが前提なことが多く、親
としてはヤキモキしてしまう。学校へ行けない、行かない選択をした時、孤立することないように思ったと思う。
それが保護者の動きからではなく、学校からあるととても助かるし、それだけで安心する。例えばリモート授業が
あったりするだけで、可能性の話になるが、復学したい気持ちを持つてる子なら完全に学校と離れている、排除され
ているという気持ちが減るのではと思う。親としても、勉強の区切りや進捗具合がわかるので助かるのではと思う。
年齢が低くければ子供を置いて仕事に行くことは出来ない、年齢が上がれば、子供の気持ちに寄り添う事も難しく
なったりする。それは仕方ないが、行けなくても行かなくても大丈夫、工夫すればいいのだと思える環境になるだけ
で、親はどれだけ救われるかと思う。

子供はまわりとの関係を積極的に持とうとせず、本人に任せてはいるものの、このままでいいのだろうかと不安にな
ります。

学校は一度離脱してしまうとその流れに乗るのが難しく、復帰するときに大きなハードルになる。評価もそこに当て
はめてのものになるため、自分なりの成果を出しても点数につながると限らず、評価にもつながらず復帰してもしん
どい現実が待ってる気がします。

自分自身、不登校に対して否定的な考えで、まわりに助けをもとめることが出来なかった時期が長かったが、不登校
の事実を打ち明けた時、意外にも肯定的な見方をしてくれる人が少なくないことに気づかされました。

ただ、学校に行かないと義務教育の恩恵や給食の補助、学習のサポートを受けられず、親の経済力や知識による差が
生まれてくることは否めないと思います。その不公平感がなくなればいいなと思います。

親の会に行く事にも抵抗があり、親自身が弱っているご家庭もあるのではないのでしょうか。我が家がそうです。オン
ラインで交流、情報交換できる場所ができればいいとずっと感じています。

子供の事にのみフォーカスしてしまいがちですが、親の対決にも問題があり、状況が好転しないケースが自身もそう
でしたが、多々あるように見受けられます。子供と同時に親のカウンセリングもできればいいのかなと感じます。

不登校という言葉がなくなればと思っています。

学校という子どもは必ず通らなければならないところに閉じ込められ、選択肢の幅も狭く、個々の良いところ個性も
潰されてしまうような場所で苦しんでいる人はたくさんいると思います。

学校が変わるか、学校以外の選択しがあるか、自分で選べる世の中になってほしいです。また、障害を持つてる人も
発達障害を持っている人も、みんな一緒に、同じ場所で過ごせる、そんな世の中になってほしいです。

<p>不登校の現状を改善されようと活動されている事に、不登校を抱える親として感謝しております。ありがとうございます。</p>
<p>いじめ不登校ひきこもりでも相談窓口が学校で、なんの問題解決にもならない。 教員の保身でいじめが報告されない。学校側の隠蔽で不登校児童本人もしくは家庭の問題にすり替えられ、教育委員会などに報告されている。一般的に弁護士も話を聴いてくれるような弁護士は勝ち目が無いとのこと。法務局は医者とはただのおじさんと言い切る。学校と医療の狭間で取り残される被害者。</p>
<p>学校の先生と話をしていると、まだまだ不登校に関する知識や情報が少ない。 その反面、義務教育に対して問題視をしている先生も多いが、なかなか現状を変えられないもどかしさも抱えているように思える。</p>
<p>不登校になる理由は多様であり、自分で自分を守るための防衛反応。無理に学校に戻すことを優先させたい大人に苦しむ子どもをたくさん見てきました。学校以外に安心できる居場所が学びの場となることをもっと多くの大人に知ってほしい。そんな受け皿がもっと増えたら、不登校経験者たちが地域社会で活躍する人材に成長できると考えています。</p>
<p>子供が学校に行きたがらなくなった時、親子が孤立しないことが大事だと思います。 居場所マップが、孤立を防ぐために役立つことを期待しています。皆さんの活動に感謝します。</p>
<p>息子が中学～高校と不登校でした。当時を思い出し回答させて頂きました。</p>
<p>不登校の家庭が、家以外で親子で安心して過ごせる居場所がもっと増えたらいいなと思います。</p>
<p>社会に不登校の理解がもっと広まって欲しいと思いますが、不登校の苦しさは当事者でないと絶対に分からないと痛感します。</p>
<p>学校側は不登校傾向になると、すぐ思春期外来等の精神科受診をすすめる。親(特に母親)は様々な関係者から指摘を受け、自分を責め、疲労し孤立する。不登校にさせようと育ててきたわけではないのに、母親が哀れ過ぎると常々思う。</p>
<p>学校に行ったり行かなかったりだけけどフリースクールのようなところに行く気が子どもにはない。せめて高校は卒業してほしいがお金が不安。</p>
<p>学校からは登校渋り始めた頃に「不登校ゼロ」と責められ、今は「学校以外にも居場所はありますよ!」と言われます。学校の方向転換の早さ、潔さには呆れてしまいました。良い方向に変わったと言われそうですが、どうやったら子どもが学校に対して不安を感じなくなるか、とケース会議などしていただいていたので、ようやく学校が関わる姿勢を見せてくれた矢先でしたので、何だかいつもの外れだなあと感じています。 勝手なことを書いてしまい申し訳ありません。</p>
<p>親の会に入っているので情報を得ることができていますが、そうでない人にも居場所があることが伝わればいいなと思います。</p>
<p>不登校は6～7年と長い受け入れることはできているが、学校その他も含め本気で個別に継続した相談ができる機関や人はほぼいないと感じています。 義務教育中は何となく何月が過ぎても学年は上がっていくが、中3のためいよいよ進路となると全く選択できずにいるのが現状。 低学年と違い本人の意思、選択で決定かと思うので、親からの様々な提案もなかなか本人には響かず、このまま何も選択せず、いよいよ本当に大人のひきこもりに繋がるのかなと思う時もあります。 本人に任せるしかないのですが。</p>
<p>困ってはいませんが、情報収集はしておきたいと考えています。</p>
<p>親や学校以外の社会との接点作りと子どもの孤独感の軽減・解消、親子ともメンターが欲しいと思うことも。 子供の支援はもちろんです。親の精神面をサポートする事も重要だと強く感じている。学校の先生は先生によって対応が全く異なり良い先生に当たれば良いが理解のない先生だと親のストレスも半端ない。</p>

小学生、中学生ふたりの不登校の母です。中学生の長男は4月から通塾を登校扱いに認めてもらい「不登校」ではなくなりました。こどもが学校に行けなくなってしばらくは苦しくて仕方なかったです。今は元気に通塾、ジム通いをする長男と、家で元気に過ごす次男を見ていて、学校に行けないことが問題ではないと感じています。こどもに合った居場所と、親が気持ちを受け入れてもらえる居場所(こちらのほうが先かと！)が必要だと思います。長男は1年以上家で過ごし、いざ！登校しましたが「学校には行けない。」と言って居場所を探しました。最初は好きな時間に来て好きなことをして過ごし好きな時間に帰る、というスタイルのあるフリースクールさんを見学しましたが、長男には合わず。適応指導教室の見学を申し込みましたがなかなか返事が来ず。どこかないのかと探して、今の個人塾に辿り着きました。本来夕方からやっている塾でしたが、事情を説明したところ、長男の希望に合わせて朝から夕方まで授業していただき、さらに先生のほうから登校扱いにできないか学校のほうにも掛け合っただき、通塾した日に遡って登校扱いを認めていただきました！私としては、居場所があるだけで十分と思って登校扱いについてはこだわっていませんでしたが、頑張りを認めてもらえたことは長男も自信がついたようです。私も、声をあげていくことが大事なんだ、行政を動かすこともできるんだ、と思いました。いろんな生き方を認め合う、優しい世界になってほしいです♥

本人がやる気になるまで(行動できるくらいに心のエネルギーが充電されるまで)は、周りの大人が焦っても仕方がないと開き直っています。親の考える「普通」とは違う、どんな進路選択をするのかを楽しみに待つつもりです。とは言え、何もしないのではなく、情報収集はしておき、ここぞというタイミングで提示できるように準備はしておきたいと考えています。

もし、可能であれば、親の会などもそうですが、フリースクールなども各地域にもっとあるべきだと思うし、精神科に相談とかではなく、学校でもし対応ができないのであれば、色々な施設フリースクールなど早く情報として教えてもらいたい。あとは、学校側としても、まずは週何日かはきている子供たちを完全に不登校になる前に対応出来るように専門の先生を増やすとか個別に学習が出来るとか何か対策して欲しい。

人が沢山いる所が苦手だけど、自分が楽しいと思う事には出掛けて行く子なので、徒歩でいける居場所があればと思います。勉強も無料で教えてくれる場所があればいいなあ。

不登校となっている子供やその親は必要とする支援を十分に得られていない。結果として、子供達は成長過程で得であろう自己肯定感や達成感や自信を得られず、子供も親も孤立したり先行きに不安を抱いている。学校では学習を含めた支援のノウハウをあまり持たないほか、不登校児対応に人員も避けない状況。

中学生となり思春期になり、家庭での対応は、ますます難しい。親以外に信頼できる人関わりを持つ、または、家庭以外にも居場所や繋がりがある事は、子供達の将来にとって重要だと感じる。

学校は、子供を枠に入れようとしています。そこから外れた子供は居場所がありません。学校に行きたくても居場所がないのは辛いです。先生に、期待することは諦めました。そうしたら、気持ちが楽になりました。

学年に関しては、担任がかわり宿題に関してのやりとりが負担になり登校へのモチベーション低下につながったように思えます。

家にいるのが一番楽でいいと思ってるような気がします。ゲームで他の人とオンラインで繋がる事ももちろんいいと思いますが、フリースクールのような同じ状況の方々と一緒に遊べたらいいかなとは考えます。本人がどうかはわかりませんが、近くに気軽に行ける場があれば親としてありがたいなと思います。義務教育の教育費、諸費用払いながらまた別の場に行くと料金が発生するのは不登校家庭には負担が大きいかなと感じます。

山形県内の現状を知る、とても重要な取り組みだと思いました。

義務教育期間はフリースクールへ通っても学校と同じくらいの負担で済む様な世の中になってほしいと思います。

子供が不登校になり、学校以外の居場所というものが重要だと考えるようになりました。子どもたちそれぞれ居心地の良い空間は違うと思うので、たくさんの選択肢があれば、外に出るきっかけも増えるのではないかと思います。

いじめがあり、担任の先生の対応も悪かったことから半年ほど完全不登校でしたが、現在子どもは自分で考えて、給食からの登校を続けています。

子どもの不登校は学校や友人との相性が合わない以上仕方ないと考えています。

また、不登校児を受け入れてくれる放課後デイサービスにしばらく通っていましたが、終始遊ばせているように感じて、娘には刺激が足りず足が遠のくことになりました。

娘の不登校を通して、いろんな方々や機関との出会いがありました。娘の個性や興味関心を尊重してくださる方との出会いはほんとうにありがたいものでした。一方、不登校をあってはならないものと考え、隠そうとする親ごさんや支援団体も多くあります。学校に行けないのはかわいそう、その意識を変えていくことが必要です。

子どもの不登校に直面すると、親は子どもの居場所問題や仕事とのかねあい、学校とのやりとりに終われ、ひどい場合は家族からも理解が得られず孤立する、という問題もあると思います。

私は、娘の不登校を通して、学校に任せればなんとかなる、という依存を手放すこととなりました。平均より高い知能を持つ娘はある意味で個別の対応が必要ですが、小学校ではそれは無理だと感じています。図書館やスタディサブリなどの通信教育の助けを借り、娘の興味関心を家庭で育てていくしかないのかなーと思います。娘も、私も、同じような子どもに会えたらいいなあと考えています。

子どもは不登校だが、元気なので子どもについてはあまり心配していない。ただ、自分の子どもへの関わりがこれでいいのかと時々不安になる。

中3になり、学校から進路指導？の刺激があるが本人にどこまで伝えていいか分からない。せっかく元気になったのに学校側の言うようには全部は出来ない！したくない！と葛藤している。情報は私が取捨選択して子どもに伝えている状態。しかし、不安もある。

学校に馴染めなくても家族以外の人と繋がっていける居場所の大切さを実感していて、これからも良い出会いのきっかけを作っていきたいと考えています。山形で不登校の子ども同士が好きなことでゆるく繋がっていけるような団体もあれば知りたいです。

フリースクールを利用するようになり、子供が生き生きとしている事はとても喜ばしいのですが、学習への意欲はゼロな状況に不安は感じてます。本人がヤル気になった時に、恐らく集中してやれる力があるのでは無いかと思っはいるが、保証はない所で不安は残ります。また、義務教育の期間をフリースクールで過ごすのに、公的な費用補助は無いのか気になる所です。

悩んでいた当時、気軽に相談できる機関や施設が、市報等へ掲載されていたら良かったなと思います。

今は相談を受ける側になったが、チャット形式で気軽に相談出来るものがあると、気持ちが楽になる救われる方が増えるのでは無いかと思います。

フリースクールで、毎日楽しく過ごさせてもらってます。とてもありがたいです。

しかし、現在六年生になり。学習面での心配が少しあります。まずは、心を元気にすることが大事と特に学校も学習も焦らずやってきましたが。あとは、毎日起こる頭痛に困っています。頭痛外来も2年以上通っていますが、なかなか改善されず。本人も辛そうです。そこら辺が今の心配事です。

学校、適応教室の先生、対応の勉強不足を強く感じます。

学校以外の場所や、子供が安心して関わりたくなる人が、必要です。

義務教育期間は学校が相談窓口で全く改善がみられないのが悔しい思いです。いじめが隠蔽され被害者が絶えません。子供を保護する立場の教員の在り方に疑問をもちます。

学校に通ってない自分は悪いと思っているので平日はひきこもり状態。自分らしく居られる居場所があればいいがわりにはない。自宅を居心地よくとは思ってるがひきこもる子どもの姿を見ていると不安になる。私の精神状態を安定させて好きなことをしようと思ってるが一定に保つには難しい。

毎日1日中家にいるが、特にしたいこともないため無気力に時間を持て余している。外で体を動かすなど、なにかをしてみたいという思いは少しあるみたいだが、習い事のように決まった曜日・時間に通うということ、自分以外の人がいる中に行くのは嫌だということで、結局なにもできていない。子が望むときに、気の合う同年代・またはお兄さんの存在の方が家に来てくれて一緒に遊んでくれるようなサービスがあれば良いと思う。

<p>学校に行かなくなった理由として友達となにかあったわけではないが、特に親しい友達はおらず、もし行ってもなにを話していいかわからない・雰囲気が気まずい感覚になるからさらに行きたくない、と言っている。だが同時にやっぱり友達はほしい、でも気まずくなるのはわかっているからどうしたらいいのかわからない、と不安を抱えている。私に伝えるだけでなく、子が安心して心配事や想いを伝えられて、相談にのってもらえるような、信頼関係を築けるような人・機関に出会えたら良いなと思う。</p>
<p>不登校を学齢期に本気で向き合わないと、長期化して大変になります。</p>
<p>ひきこもり、不登校について情報が以前より増えて、フリースペース、居場所があるが、もっと気軽にいつでも相談出来る所があると良いと思います。</p>
<p>フリースクールや居場所を色々調べましたが、場所によってはスピリチュアル的な内容のプログラムがあるなどして、内容が適切かの判断が難しいと感じました。山形県でも不登校の子の選択肢は広がっていますが、居場所としての運営基準にある程度の指針があって欲しいです。</p>
<p>居場所を作っていくことも大事だが、居場所へ行くことができない子供が取り残されてしまう為、オンラインゲーム等で繋がりをもてるような施策を検討していただきたい。又、このような活動をするにはお金が必要なので、未来ある子供達に県等からの支援をお願いしたい。</p>
<p>とにかく学校との考え方の違いは、いつになっても苦痛だし対応に悩むところです。親の会や居場所と出会ってからは私自身の気持ちも楽になり、考え方も変わったので、一人で悩む親の方たちがいろんな情報を掴めるようになればいいなと思います。</p>
<p>子供がはじめに不登校になった時、どこの誰に相談して良いのか分からず、とても苦しい思いをしてきたので、なるべく早く相談できる場所を知り子供の居場所と繋がることは家族にとって、大きな心の支えになると思います。</p>
<p>学校に相談しても解決に繋がらなかった。中学校は集団生活をする所だから、本人が周りに合わせるしかない、無理にでも登校させてください等と言われて不快な思いをした。どこに相談したら良いのかわからなかった。</p>
<p>発達障がい特性上、学習面に困難があることを先生がなかなか理解して下さらなくて、本人も授業中辛い思いをしました。ストレスが溜まったり、緊張が高まると急激な下痢や頭痛が現れ、朝起きることもできなくなったりしました。トラブル続きで、学校からの呼び出しが頻繁で仕事もまともに行けなくなり辞めたりもして、経済的にも大変でした。</p>
<p>本人は、中学では支援級に在籍しており、先生方の理解もあり、あまり困り事過していますが、時々疲れが溜まった時に月1くらい、充電目的で休みたがることがあります。自宅で過ごしても問題ないのですが、同居家族の理解がいまいちで自宅にもいられないことがあるため、その時はから・ころの居場所で過ごしています。第3の居場所があることで本人も親も安心できています。</p>
<p>気軽に相談できる相手がいない 学校行事に参加していないので保護者との関わりがなくなってしまった</p>
<p>子ども達が不登校になり、不登校、ひきこもりの子ども達が多くいるという現実が見えてショックを受けました。そしてその支援の場所が非常に少なく、学校はますます行きづらい場所になっていると感じています。今の子ども達に合った学校になって欲しいと強く思います。 そして保護者の方々の学びの場や、お話する場所が必要だと思っています。</p>
<p>本人の要望を、どれくらい叶えてあげていいか迷うことがある。</p>
<p>本人が行きたいと思った時に自分で行ける距離にあるといいと思います。</p>
<p>個性が強く凹凸のある子供が自由な発想を壊されず、楽しく学び暮らせる場所が欲しいと思っています。</p>
<p>学校や行政は関われば関わるほどがっかりして、なんとか保っている精神状態をかき乱される</p>
<p>子供が通っている小学校にも我が子以外にも不登校の子がいると思うが、親同士の話などもなく、うちだけかぁと不安になることもあります。親の会など各小学校、市内の小学校などあるといいなあとと思います。</p>

不登校に対する理解が広がり、多くの児童生徒が休む選択ができるようになってきたと思います。また、渦中にないない大人たち同じ児童生徒たちも学校に来れないでいる子どもたちを、そっと自然なかたちで見ているようにも思います。ですが、休んでいる当の子どもたちは全く休まるわけではなく、むしろ苦しみもがいて責め続け傷ついていることを忘れてはならない、と思っています。不登校の自分を受け入れられるのは早い子どももいるでしょうし、何十年も掛かる子もいると思います。息子も早くみんなと同じ位置、(当たり前前学生をして当たり前前に働くこと)に行きたくて、いまだに必死です。

日本の教育システムにも問題はありますが、わたし個人はそこに敢えて視点を置いていません。やはり、身近な大人じゃないかと。何かができなくても、何もなさなくても、頑張らなくても、ちゃんとしていなくても、ワガママでも、言うこと聞かなくても、

どんなでも、あなたは素敵♥なんだ、そのまま大丈夫なんだ、ということをお小さい頃から、めいいっぱい伝えて表していくことって何より大事だと思うようになりました。わたしは息子に真逆のことをしてきましたから、息子にはとてもつらい思いをさせてしまいました。不登校の親である私たちももがいて苦しみます。揺れに揺れて漂います。早くそういう状況から解放されたいとおもいながらなかなか抜け出せないものです。渦中にいながら少しずつ少しずつ自分の歩みを進めていくしかありません。というか、気がついたらそうなっていた、前に進んでいたというところがほんとのところ。今、わたしは、あの頃から比べて息子の苦しみに引きづられなくなりました。わたしはわたし。自分の機嫌は自分で取り、日々機嫌良く過ごしていたら、家庭の風通しが良くなったと感じます。時間は掛かりました。息子がいろいろあってから10年以上が経ちます。ようやく、人生楽しいこともいっぱいだなあと思えるようになりました。息子が自分の命をかけて、わたしに大切なことを教えてくれたのだと感じています。

今現在は、成人しているが、まだ働けていない。学校に行かないことで身に付けられなかったことを身につけるチャンスが必要だと思う。今現在不登校の子の居場所だけでなく、学校へ行く年齢ではなくなった者への居場所づくりや選択肢も増えていけば、と思う。

学校側が不登校児とその親に対して、もう少し理解を深めて欲しい。

公共機関も然り。行かないのが悪ではない。

この対応でよいのか、もっとよい対応の仕方があるんじゃないかと不安になる。

教育機会確保法が学校で浸透していないと感じる。それ故、学習に関しての手立ても全っく打っていない。スクールカウンセリングは受けているが、そのついでにプリント類を配布されるだけである。学習ソフトが入っているタブレット(ソフトの費用は支払っている)も、こちらから学校にお願いして、会議→承認、申請書を記入しやっと貸し出してもらった。1年生の頃から「勉強はもうしたくない」と言い続けて息子が「勉強してみようかな」と2年ぶりに初めて呟いたので依頼したが、そこから手元にタブレットが届くまで時間が経ってしまい、その間やる気が失せてしまった。残念で仕方ない。本来、タブレットの貸出やオンライン授業などへの参加など、学校が提案すべきことと考える。不登校の子供たちは蚊帳の外である。

学校以外で子供の居場所が欲しい。

子供が安心して過ごせる居場所をがもっと増えてほしいです。

居場所は本当に必要なもので、探すのがあちこちのサイト検索だったり、探しにくいので困っていました。相談先も色々電話しましたが、山形市の親子向けのチャットのLINE相談が為になる情報をくださり一番いいです。楽しく過ごせる場所、自分を出せる居心地のいい場所、様々な大人や共感してもらえる、同世代など、沢山の人が出会うきっかけなど、2人きりになる日が多いので、人との出会いで、話、コミュニケーションが出来れば嬉しいです。孤立するとイライラたまってしまうたり、我が家はなんとか相当参ったとき、夫、祖父母にヘルプ出せてなんとかプラスに考えられるようになってきましたが、誰にも相談出来ない、居場所もない、閉塞感の中では、何が起きるかわからない状態で非常に怖いと、今回身を持って感じました。身近に沢山困っている方がいるとおもいます。居場所マップ、楽しみにお待ちしております!!本当にありがとうございます!!

不登校に対する理解がなく身内でさえも敵になる、子供を守る体制を組織化しないと難しい。

社会の理不尽さを家庭だけでは背負いきれない、真っ当な家庭こそ背負う荷が大きくなる。

子どもの不登校・行き渋りを前にしたとき、子どもの状況や学校のことなどを相談できる場所や、親の会の情報もちろんあってほしいです。そして、その中には、自分自身のキャリアや働き方について相談できるところもあったらいいよなと思いました。子どものことを考えたら親がキャリアを諦めるのは当たり前、というのはおかしいと思うのです。まずは、どちらも諦めずに道を探ってみてほしい、本当ならば多様な選択肢があるはずなので（現実には、どこかで折り合いをつけないといけないかもしれませんが。選択肢を検討したかしなかったかは大きな違いだと思います）

私と友人で共同代表をしている会は、子育てでも仕事も諦めない、をモットーに活動しています。友人はキャリアカウンセラーであり、立ち上げた人材会社の副社長です。その会の全国ネットワークというつながりも活用できます。

家の近くに子供が安心して過ごせる場所が、複数・様々なタイプ(フリースペース、フリースクール、適応教室等)で確保されていると、選択肢の幅が広がって、住みやすい環境になる。

- ・ 学校外の居場所、学校内の居場所、共に必要と思う。
- ・ 不登校の子を抱えることで親の勤務時間が減る傾向がある。我が家は大丈夫だったが、金銭的な支援が必要な家庭も生じるのではないか。
- ・ 自宅にいて運動機会が激減した。運動機会をどう確保するかも、今後の課題ではないか。

いじめで学校にいけなくなったとき、なぜ被害者だけ泣き寝入りしなければならないのですか？

加害者が出席停止など、そのような処置が取れないのはなぜですか？悪い事したらごめんなさいが基本でしょ、なぜ加害者はそれがわかりませんか？

都市以外でも通える居場所が欲しい

今は外出が困難で人混みを怖がってしまいます。精神科への通院も始まりましたが、先が長いようです。学校とのやりとりは、今年担当が変わりほとんどやりとりがなく繋がりを感じられず不安があります。学習もさせたいのですが、今は心の回復を待つのが先だとわかっているのですが焦ります。

不登校の生徒の親に対するケアが何もなく、親が疲れ果ててしまう。

子供の将来への不安。子供が信頼できる人を見つけてほしい。生き生きと人生を送れる姿を見たい。子供のつらい顔を見るのがつらい。

学校で不登校に対する理解がなく、やり取りの中で辛い思いをする場面が多い。学校から蔑ろにされているように感じ、孤独感がある。(学校側でも不登校に対する理解の不足や、不登校児に対応する余裕が無いように感じられる)

担任の先生は学年が変われば関わりがなくなるので、長期的に見てくれる親身になってくれる先生がほしい。親とも定期的に面談をして情報共有や相談にのって欲しい。親の苦しみも受け止めてくれる言葉や態度が欲しい。先生達も他の子で大変なのはわかるが、不登校について勉強してほしい。子供が小さいと仕事に行けず経済的に苦しいので補助があるといい。フリースクールなどは高くて行けない。どんどん孤立するので入りやすい場所が欲しい。学校の世代が終わっても社会に出られずでは、自立できないので、長いスパンで関わりが持てる場所が欲しい。今回のアンケートのように、意見を言える場が無かったので、改善されないのだと思いました。ありがとうございました。

中学生の頃は、先生に怒鳴られた事がきっかけで、学校へ行く事ができなくなってしまった時期がありましたが、別の先生に変わってからは、少しずつ学校へ行けるようになり、山形を離れて、大学生活も頑張っているの、必要な経験だったのかも知れないと、前向きに捉えるようにしております！

※個人や団体が特定されないよう 名称などに関わる箇所のみ編集しております

**不登校・不登校傾向の子どもがいる家庭における
「居場所」確保の現状に関わる基礎調査
報告書**

令和5年度 WAM（独立行政法人福祉医療機構）通常助成事業

発行日：2024年3月25日

助成事業受託者：特定非営利活動法人クローバーの会アットやまがた
(理事長 樋口愛子)

〒990-2413 山形県山形市南原町1-27-20
E-mail：info@cloveryama.com

執筆者：安藤耕己（山形大学地域教育文化学部 教授）

〒990-0865 山形県山形市小白川町1-4-12
E-mail：andok@e.yamagata-u.ac.jp

【非売品】

